

梅窓院通信

秋彼岸号

No. 108
2020/09/01

青山



昨年の秋彼岸法要の様子

住職挨拶

梅窓院第二十五世 中島真成

今年もはや秋を迎える季節となりました。異常気象で春夏秋冬のバランスが崩れている中、どんどん短くなっている秋ですが、読書や秋の味覚、芸術を楽しみたいものです。

さて、新型コロナウイルス感染症防止のため、梅窓院でも多くの対策、対応をしております。詳しくは七面の特別記事をご覧ください。そうした中、大きく変わるのは大法要です。従来のように参拝者の皆様に本堂・祖師堂にお集まり頂くことができませんので、ご希望の方には本堂内での焼香のみ可能とさせていただきます。その代わり、法要の様子はYouTubeで生中継をして、パソコンやスマートフォンで観ることが出来ます。とはいっても操作がよくわからない方も多いかと思えますので、簡単な操作でホームページにアクセスできるQRコード付きのお守りも配布します。詳しくは八面をご覧ください。

また、来年三月までの行事はすべて中止致します。通年で開催している仏教講座、秋の文化講演会や音楽コンサート、芸術の秋の行事は例年楽しみにして頂いている方も多く、誠に残念なのですがご理解頂きたく存じます。元旦のお雑煮の振る舞いも行いません。

さて、こうした感染症はいまに始まったことではなく、昔から人類を苦しめてきました。島国の日本も例外ではなく、多くの方が亡くなってきました。浄土宗を開かれた法然上人のいらした平安鎌倉時代も同様です。当時の絵巻などにはウイルスが鬼や化け物に姿を変えて表現され、それらを追い払う場面が描かれています。「この建物の中ではいま念仏をしている。参加している人々の名簿を渡すからこの人たちには取り憑かないように」といった一枚です。

法然上人も仰られています。が、残念ながら念仏を称えても病気は治りません。ですが、安心を得ることはできます。ステイホームする時は、いつもより少し長くお念仏してみてください。

仏教歳時風物詩(51)

秋へ、心の旅路

新宿区 香蓮寺住職

勝崎 裕彦

私

は元来旅行好きではないので、家に居ることが苦にならない。というよりは、静かな家居こそ今の私にとつてのなによりの好事・安楽事なのである。しかし、旅情とか旅愁という言葉があるように、旅に出てしみじみと感じ入り、旅先の風気をじっくり味わいながら、悠揚迫らぬ思いで旅心にひたすら身と心をまかせようなゆとりを、決して好まぬものでもなく、また決して願わぬものでもない。

古いラブロマンス映画に「心の旅路」という哀愁を誘う物語があったが、私は今、歳時記の秀句を辿りながら、秋という季節、そして人生の秋の旅情を、「秋の俳句の心の旅」とでも題を冠して一文を綴ってみよう。
まず初秋新秋に目を留めて――。

初秋の雲遠近や信濃川 (虚子)
初秋やここに揖斐川長良川 (林之助)

高浜虚子は、大河信濃川の上空の彼方此方の雲の行方に初秋を感じ取した。八木林之助は、木曾川とともに濃尾平野を潤す揖斐・長良の両川に初秋を定置した。私も新潟市の信濃川の河口に立ったことがあり、揖斐川、長良川の流れはJR東海の新幹線の車窓からいつも眺め見ることである。

秋高し空より青き南部富士 (青柳)
阿蘇山頂がらんどうなり秋の風 (朱鳥)

南部富士は岩手山のこと。盛岡市生まれの山口青柳にとつては、天高き秋に澄み渡る大空の青さよりさらに青く聳え立つ、ふるさとなつかしい自慢の南部富士の麗容・尊容である。野見山朱鳥は九州福岡県直方市生まれの「ホトトギス」同人。「がらんどう」は中になにもないこと、空っぽ・空虚なことをいうが、もともとは伽藍堂と書いて寺院の堂塔のことで、この句を仏教語にまつわる仏教句と捉えてもいい。私は岩手山は見たこともなく、阿蘇山は六十年近く前に高校の修学旅行で行ったきりである。

奥入瀬の水に樹にたつ秋気かな (冬葉)
長崎の坂の秋めく石畳 (冬比古)

十和田湖に発する奥入瀬川上流の奥入瀬渓谷は紅葉黄葉の深秋の景勝地として有名であるが、私は訪れたことがない。大須賀乙字門にあつて自然観照にたけた吉田冬葉のこの句は、「水に樹にたつ」という中七がよく効いて、奥東北の鋭い秋気がはつきりと記されている。森冬比古の一句は、わずかな旅行経験しかないこの私自身も、ある

年の秋のはじめに登り下りした思い出がある。

秋晴や宇治の大橋横たはり (風生)
京に来て嵯峨はまだ見ず秋の暮 (巴山)

さて京都である。富安風生の句は、秋晴れの宇治橋を「横たはり」の下五によつて、ゆつたりとおおらかに捉えた。私も平等院鳳凰堂を参観したついでにちよつと渡りかけてみたことがある。新井巴山は京都北西右京区嵯峨の地を挙げており、私も嵐山の地は何度か出かけており、大覚寺や天龍寺、そして清涼寺など印象深く参詣したことがある。いずれにしても、秋の京都の寺めぐりはまことによろしきかなである。

私たちは今、コロナウイルス禍のきびしい状況の中で、感染予防に気を配り、注意し合いながら、ひたすらに我慢し、忍耐する重苦しい生活を強いられている。この難局をなんとか乗り切り、なんとかしても乗り越えるために、心一つにして生き生かされて行きたい。今年の秋のお彼岸のご供養は、そうした私たちの心からの祈りと願いが強く深く込められている。

(大正大学名誉教授)

盂蘭盆会法要

7月13日(月)



開山忌法要

6月13日(土)



施餓鬼会法要

5月16日(土)



5・6・7月の

行事報告

彼岸寄席

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、中止となりました。

秋彼岸会法要 午後1時～ 2階 本堂にて

※秋彼岸会法要は梅窓院僧侶のみで厳修し、お塔婆は法要後に僧侶にて建てさせていただきます。

なお、寺院内マスク着用に限りお焼香のみ可能ですが、ご参列・ご着席は頂けませんのでご注意ください。

また、法要の様子をライブ配信予定です。詳しくはホームページをご覧ください。
<https://www.baisouin.or.jp/>



九月二十五日(火)

秋彼岸法要

秋彼岸によせて

夜風を涼しく感じる季節になりました。皆様はいかがが過ぎでしょうか。

皆様にもご不便をおかけしてりましたが、梅窓院では空調機器の改修工事があり、この間、法務部職員は地下の祖師堂に引越しておりました。偶然、私のデスクはお祖師法然上人と正面から向き合う位置となり、有難く思った次第です。

法然上人がお説きになった念仏者のための四つの修行(四修)の中に、極楽にいらっしゃる阿弥陀様(仏)とその教え(法)とその教えのもと修行されている僧侶(僧)の三宝について、片時も忘れず、尊びなさい(これを恭敬修といいますが)とあります。

法然上人と向き合っておりますと、普段の生活のなかで忘れてしまいがちな、この務めを改めて心がけたいと感じました。

「篤く三宝を敬え」は聖徳太子の有名な言葉ですが、念仏者は、特に阿弥陀様のいらっしゃる極楽の三宝を敬うことです。法然上人のいう「片時も忘れずに」とは、言い換えれば、常に阿弥陀様の存在を感じて、極楽にお生まれする気持ちを持ち、そのように振る舞いを正すことといえましょう。そして、私共のこの姿を必ず阿弥陀様はご覧になって、この世においては守り導いて下さり、命の終わるときには極楽へと迎え下さいます。

さて、本年も秋のお彼岸が近づいて参りました。本年は残念ながら、皆様にはこの法要に参列をして頂くことができません。お焼香のみご案内するようになりました。また、盂蘭盆会法要に引き続きYouTubeにて、ライブ中継もされます。仏様と極楽へ先立つた方々のお導きを感じて、画面越しにはなりますが、ご一緒にお念仏をお称え頂ければ幸いです。合掌

(法務部 / 中島真紹)

令和2年度 秋のペット慰霊法要

ライブ配信のお知らせ

梅窓院の僧侶のみで厳修致します。法要の様子をライブ配信予定です。詳しくはホームページをご覧ください。

配信開始時間: 午前11時～

主催: 株式会社ジャパンエキスパートシステム



秋彼岸とは

「暑さ寒さも彼岸まで」と言われるように、季節の変わり目として生活に密着している行事がお彼岸です。このお彼岸は仏教諸宗派共通の仏教行事で、特別な7日間の修行期間です。私たち浄土宗は念仏を称えることを唯一の修行としますので、お墓参りとともに、極楽浄土の阿弥陀様にこの身をお任せするお念仏を忘れずにお称えしたいものです。

浄土宗の仏具と衣

第5回

衣

袈裟シリーズに引き続き、衣の紹介となります。現在、梅窓院の大法要は YouTube で観ることができますので、ぜひご自宅でもご覧下さい。

さて、皆さんがお坊さんの着る服として思い浮かべるのは、**作務衣**と呼ばれる作業着かもしれません。ですが、これは一般の方も着る服で、衣ではありません。衣はその上に袈裟を纏うお坊さんの着物のことです。

まず、(写真二)が改良服と呼ばれる衣の簡易版です。(写真二)の黒衣と比べると、袖と丈が短く詰められています。つまり黒衣をより動きやすくするために改良した衣なのです。動きやすくした理由には諸説あります。

(写真二)から(写真六)までが基本的な衣で、その形はみな同じで、色が違うだけです。

(写真二)黒衣と呼び黒色

(写真三)萌黄と呼び緑色

(写真四)松襲と呼び緑紫色

(写真五)紫衣と呼び紫色

(写真六)緋衣と呼び緋色

以上、全部で五種類あります。そして、黒衣を除いて色がついている衣はお坊さんの位(浄土宗では僧階と呼ぶ)によって着ることが出来る衣と着られない衣に区別されます。ちなみに萌黄から紫衣へと上がっていきます。

もともと浄土宗を開かれた法然上人の時代(平安・



黒衣

衣の基本となる。



改良服

黒衣の袖と丈を短くしたもの。



紫衣



松襲

緑色の横糸(ぬき)と紫色の縦糸で織られ、香衣のひとつ。



萌黄

緑色の衣で、
香衣のひとつ。



緋衣

緋色の衣で
特別な衣。



紫色の衣。



大法要では様々な色の衣が見られます。

鎌倉)には黒衣だけでしたが、時が流れ、色付きの衣(香衣)が生まれ、香衣を被着するには天皇の許し(勅許)が必要でした。歴史を紐解くと、誰それが無断であの色の衣を着ていたなどという騒動も起きていたようです。ちょっと残念ですね。

さて、(写真六)の緋色の緋衣は特別で、総大本山の狛下、台下(ともに住職の尊称)しか着られません。ですが、御忌などの法要で一般寺院の住職が特別に狛下や台下に代わりお導師を務める時には、被着許可をもらい着ることができます。

梅窓院に緋衣があるのは、中島真成住職が平成十七年に京都の清浄華院の御忌で唱導導師を務めた時に、緋衣を被着できたからです。だいぶ前のことですが、梅窓院で団体参拝を組み京都へ行きましたので、ご記憶の方もいらっしゃるでしょう。

衣には様々な色がありますので、注目して見てみて下さい。

今回は梅窓院の清掃と設備を管理して頂いているビル管理会社の社長にご登場頂きました。学生時代に立ち上げた会社は今や従業員860名。経営理念も伺いました。

◆本日はよろしくお願ひ致します。
こちらこそよろしくお願ひ致します。

池袋の駅前にある本社オフィス入り口で。左が 社長。

◆早速ですが、御社のホームページを拝見すると、梅窓院とのお付き合いは2017年7月からですね。

はい、ご縁を頂いてからおよそ3年です。

◆お寺との契約は初めてでしょうか。

初めてですが、梅窓院さんはビルの中にお寺があるので、特別感はありません。

◆そうですか。梅窓院での仕事の内容は清掃と空調などのメンテナンスですか。

はい、週5日の日常清掃や定期的な床と参道の清掃がメインで、各種設備関係で不具合が生じた時も緊急対応させて頂いています。

◆お檀家さんに梅窓院さんはいつ来ても綺麗にされていると言われますが、トータルシティービル管理さんのお陰なのですね。

いえいえ、皆さんが大切に使われているからですよ(笑)。

◆受託履歴を見ると、大型商業施設や大学、病院が多いようですが。

はい、当社は大型施設を中心に仕事をしていきます。

◆新型コロナで休業になった施設もあるかと思えます。仕事に大きな影響が出たのではないですか。

いいえ、それがあまりありません。施設は使っても使わなくても、点検や清掃は必要ですし、仕事を受ける会社の業種をできるだけ多様にするように心掛けているので、乗り越えていけると思っています。

◆なるほど。御社は 社長が大学時代に立ち上げた会社ですね。

はい、ほとんど通わず中退した大学時代はもっぱらアルバイト生活でした。そして、掃除のバイトをしていた時に、モップ一本でできるこの仕事なら俺でもできる、と起業しました。

◆今で言うベンチャー企業ですね。

はい。ベンチャーというと新業種や新サービスを展開するイメージが強いかと思いますが、私は既に確立している業種に挑戦しました。

◆そうですか、ご苦労されましたか。

今では思い出ですが、色々大変なことがありました。

◆少しお聞かせ頂けますか。

東京、神奈川を拠点とするスーパーの全店舗を任されていたことがあったのですが、その店が倒産、一瞬にして仕事なくなりました。

現在、仕事先の多業種化を図っているのもこの経験からです。

◆失敗は成功のもと、ですね。

一番大変だったのが、26歳の時でした。床を磨く電動モップに小さな金属片が入り込んでいて、それに気付かず全フロアーにモップをかけてしまい、床全面に傷をつけてしまったことですね。傷が模様に見えてしまったのが致命的でした。

◆それは一大事!

はい、こちらのミスですから、1万4千㎡、床の全面張替えとなり、巨額な費用がかかりました。何とか手持ち資金でギリギリ賄えたのは幸いでしたが、そこから心を入れ替え、一から出直しました。

◆そうしたこともあるのですね。

お一人で始めた会社が今は従業員860名、支店などが全国に5か所と大きくなっていますが、成長の理由を教えてください。

そうですね、敢えて言えば、「普通のことを普通にやる」ということです。清掃会社を始めた頃は掃除ぐらいしかできないし、掃除だったらできるだろうと思っていましたが、いざ初めてみると掃除は奥が深く、難しいものでした。これは今も変わりません。

それともう一つ、仕事を頂いている相手先に寄り添うことです。縁を大切に縁を繋いでいく、梅窓院さんもご縁の先のお付き合いです。

◆なるほど、今後も梅窓院をよろしくお願ひ致します。

苦
労
人
の
社
長
人柄の良さがにじみ出ている。

食は命

食養研究家
武鈴子

秋の味覚「栗」の薬効

秋といえば栗、年中何でもある中でこの時季でないと見ることができない貴重な旬の食材です。

『本朝食鑑』では、栗は古来より「胃腸を丈夫にし、腎気を補い、飢饉に耐える」といわれていますが、胃腸を丈夫にするからと言っても、食べ過ぎるとかえって胃腸を損なって、下痢を起こし、消化できず、腹ふくれて、胸がふさがるようになります。胃腸が弱ってしまうと、どうして腎を助けることができようか」と述べています。

さつまいもの甘さを表現するのに、栗より甘い十三里などと言われているほど、栗は甘いもの。ところが甘味だけでなく、「鹹味」(塩から味)も同時に持ち合わせていて、腎臓を補って足腰を強くする貴重な効能があるのです。食物和歌本草にも「栗こそは味鹹^{しほ}ゆく、温のもの腎を補い、足強く成す」(*鹹^{しほ}ゆく=塩から味)と詠まれています。

栄養学でも、栗は肌を美しく保ち、ウイルスに対する免疫力をつけてくれるビタミンCや高血圧を予防するカリウムも豊富に含まれています。渋皮にはポリフェノールが多く含まれ、酸化を防ぐ働きがあります。ちなみに、栗の葉にも薬効があり、煎じた液はウルシかぶれや毛虫によるかぶれ止めになります。秋の味覚をありがたく賞味したいですね。

感染症への梅窓院の取り組み

新型コロナウイルスにより、生活が一変しております。檀信徒の皆様は、いかがお過ごしでしょうか。なにかとご苦労の多い毎日ですが、お身体に気を配られ大過なく乗り越えて頂くことを祈念しております。

ご家庭はもちろん、身の回りのあちこちで感染対策が実施されておりますが、梅窓院でも可能な限りの防止策をとっております。

お寺の各所に手指消毒剤を設置致しましたので、墓参りや法要でのご来寺の際は、ぜひご利用下さい。梅窓院の僧侶をはじめ、職員は常時マスク着用、毎朝検温を行ない、うがい、手指消毒、そして血中酸素量測定まで励行しております。



除菌水を各出入り口に設置。



ドライミスト噴霧機を導入したので安心して参拝ができます。

三密を避けることが重要と言われておりますので、建物の開放箇所を増やし、換気に配慮していますが、山門脇の休憩所でのお茶の用意はしばらく控えることになりました。ご不便をおかけしますが、ご理解を頂きたく存じます。

また、皆様のお手元にお届けする広報誌『青山』ですが、梅窓院近隣の飲食店をご紹介するコーナー「青山散歩道」については、しばらくの間中止とさせていただきます。

年間行事である大法要も、この状況の改善がみられるまで僧侶のみで厳修し、檀信徒の皆様はお焼香のみ可能でございます。

新しい試みとして、6月の開山忌法要からYouTubeで配信を始めました。今後、大法要は、同じようにインターネットを利用してお届けしたいと思っております。梅窓院のホームページにアクセスして頂き法要の様子を是非ご覧頂きたいと思っております。

なお、ライブ配信終了後もアーカイブ配信致します。間接的ではありますが、法要へご参加を頂ければ幸いに存じます。



本堂は換気を徹底し、椅子の配置はソーシャルディスタンスを厳守。

青山俳壇

選者「ウェブ俳句通信」編集長

大崎紀夫

◎特選

◎泥舐めむばかりに這ひて草むしり

◎入選

◎帰宅してアイスクリーム頬張る子

◎中庭のあやめを手向け経を読む

◎せせらぎに耳を澄ませて螢見る

◎縁側でくつろぐのには暑すぎる

◎バスを待ちつつ薄荷水飲んでゐる

◎立ち寄りし寺より枇杷を賜りぬ

◎大夕立蕎麦屋でカレーうどん食ふ

◎峠下れば大水車あり青田風

◎肉まんの経木を剥がし新茶くむ

◎フリスビーに犬の飛びつく朝涼し

◎枇杷に添へ磐若心経届きけり

◎赤き爪夏手袋に透けてをり

◎選者詠

◎雨急にくる昼過ぎのかき水

◎フンポイントアドバイス

類句とか類想句とかいう言葉があります。似たような題材、情景、あるいは似たような発想で作られる句のことで、わたしがよく知っているのは、句作りを始めて二三年の間は、「地蔵さんのよたれ掛け」とか「朝刊が配られてくる音は詠んでもいいが、三年目からはやめた方がいい」ということです。しかし、「日に何百万句と作られている句を全部読むわけにもいかず、結局、「類句類想を恐れるな」といつつよくある題材発想は避けるよつ」といつているわけです。

大崎 紀夫

投句募集

今回は「秋の季語」でご自由にお詠み下さい。10月21日を締切、令和3年1月発送の『新年号』にて発表致します。住所、氏名をお書き添えの上、ご応募下さい。尚、選者が添削し掲載する場合がございますのでご了承下さいませ。

皆さまの投句をお待ちしております。
〒107-0062 港区南青山2-26-38
梅窓院「青山俳壇」投句募集係

「やぶれ傘」会員募集

青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、下記の番号までご連絡下さい。
ウェブ編集室
電話03-5368-1870

会計報告を本誌に掲載させて頂いております。ご確認を宜しくお願致します。

自 平成31年4月1日
至 令和2年3月31日
(単位：千円)

■護寺費・年会費・墓地管理費

収入の部		支出の部	
護寺費・年会費として	80,007	浄土宗課金及び大本山宛志納金	11,881
		法要費(仏具・法衣・線香など)	22,785
墓地管理費として	33,501	保守修繕費(建物)	44,478
		保守修繕費(墓苑・境内)	25,100
梅窓院からの繰入金	36,296	人件費	39,045
		事務費(郵送費・コピーなど)	6,515
合計	149,804	合計	149,804

行事予定

秋彼岸会法要

9月22日(火・祝)

法要 午後1時～ 本堂

※YouTubeにて法要の様子をライブ配信
予定です。

詳しくは3面をご覧ください。

十夜法要

11月21日(土)

法要 午後1時～ 本堂

※詳しくは十夜号をご覧ください。

お檀家さんに伺いました

令和2年墓参されている方にて

「大切な人へ思いを込めて」

今日は妻のお墓参りに来ました。今はコロナウイルスの影響で頻りに外出できませんが、以前は週に2回程度訪れていました。

生前、闘病していた妻から「お墓の前には私の好きなものを供えてね。」と頼まれており、約束を叶えるために嗜好品を持って会いに来ています。梅窓院は心穏やかに妻に会うことができる特別な場所です。

墓参される皆様へ

梅窓院では、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、安全衛生対策を強化し、各所に除菌水の設置や換気の対応をしております。ご来寺された際、手指消毒にご利用下さい。

また、マスクのご持参・ご着用、咳エチケットなど可能な範囲にてご協力頂けますと幸いです。

体調にご不安のある方はくれぐれもご無理なさらぬようお願い致します。

大変恐縮ですが、どうぞご理解とご了承のほど、よろしくお願い致します。

梅窓院のお墓とペット供養の窓口

ジャパンエキスパートシステム 墓苑事業部からのお知らせ

皆様はYouTubeを視聴されていますでしょうか？ 恥ずかしながら私は最近視聴するようになりました。ほとんどはコンサートなどを観ているのですが、先日は梅窓院の法要をライブで視聴しました。法要に出られているご僧侶たちを画面越しに見ると(ほとんど後ろ姿でしたが)なかなか新鮮でした。今年の9月には恒例になったペット慰霊法要がございますが、こちらの法要もライブ配信することになりました。参列して下さっている方たちとお会いするのを楽しみにしていたのでとても残念です。YouTubeをご覧くださいね。

さて、今の時期は墓所の雑草などが手に負えないくらいに伸びているお宅もございます。こんな時期なので草むしり、墓参代行などお申し付け下さい。育ち過ぎた植栽は墓石を持ち上げてしまうこともございます。伐根作業になると重機を入れての大作業になりますので、そうなる前にご連絡下さい。

(皆さんの顔を見たい墓苑部一同より)

お知らせ

下記の梅窓院行事は中止となりました。

- ◎令和2年度 仏教講座 (4月～翌年3月までの全講座)
- ◎念仏と法話の会 (10月・翌年2月)
- ◎文化講演会
- ◎梅華コンサート

何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

梅窓院行事
中止について



梅窓院QRコード付きお守り配布



梅窓院オリジナルQRコード付きお守りを500体限定で無料配布致します。スマートフォンのカメラでQRコードを読み込むと、梅窓院ホームページにアクセスできるお守りです。ご希望の方は受付にお申し出下さい。

(授与時間：午前8時～午後7時45分まで)

※なお情勢の変化により、受付の案内時間を変更する場合がございます。

予めご理解ご了承の程宜しくお願い申し上げます。

発行 / 梅窓院
発行日 / 令和2年9月1日
発行人 / 中島 真成
編集 / 青山文化村
住所 / 〒107-0062 東京都港区南青山2-26-38

電話 / 03-3404-8447
FAX / 03-3404-8107
ホームページ / <https://www.baisouin.or.jp/>
E-Mail / jodo@baisouin.or.jp
題字 / 中村康隆元浄土門主 総本山知恩院第八十六世門跡